

# 明治末期の女性語について

～夏目漱石の小説にみえる「絶対女性語」の考察～

寺田智美

キーワード

女性語 明治末期 会話文 文末表現 夏目漱石

## 1 はじめに

日本語は男女差が顕著に表れる言語だといわれている。その歴史は非常に古く、『万葉集』にも言葉の男女差の存在が認められている<sup>(1)</sup>。特に女性語は、古代から現代に至る間に女房詞や遊女語などの影響を受け、各時代でさまざまな特徴を示してきた。しかし日本語の男女差が現代のような形になったのは、明治末期になってからだという<sup>(2)</sup>。

そこで本稿では、明治末期の女性語がどのようなものであったのかを、夏目漱石の小説をテキストとして用いて考察してみたい<sup>(3)</sup>。

なお、女性語を考察していく方法としてさまざまな切り口が考えられるが、本稿では男女差が特にはっきり表れるとされる文末表現を扱うこととする<sup>(4)</sup>。

## 2 テキストと分析の対象

### 2-1 使用したテキスト

テキストとして使用したのは、以下の夏目漱石の小説、10編である。

『吾輩は猫である』（1905〈明治38〉年1月）

『草枕』（1906〈明治39〉年9月）

『虞美人草』（1907〈明治40〉年6月）

『三四郎』（1908〈明治41〉年9月）

『それから』（1909〈明治42〉年6月）

『門』（1910〈明治43〉年3月）

『彼岸過迄』(1912〈明治45〉年1月)

『行人』(1912〈大正1〉年12月)

『道草』(1915〈大正4〉年6月)

『明暗』(1916〈大正5〉年5月)

※ ( ) 内は初出の年

これらの小説から、会話文(「」でくくられたもの)のみを分析の対象とした。なお、本文をデータベース化するにあたり、CD-ROM版『明治の文豪』(1997.新潮社)を使用した。

## 2-2 データベースの作成

まず、2で挙げたテキストから「」でくくられた会話文を抜き出し「」…… — で区切られているものを一つのデータとした。次に話し手とその性別を各データに入力してデータベースを作成し、文末表現の分類・整理を行った。話し手の人数は、異なりにして203人(男性133人、女性70人)であった。

文末表現を抜き出す際は、間投助詞と認定されるもの(文末にない、または読点で区切られているもの)は対象にしていない。ただし、会話の途中で聞き手が変わる場合や、呼びかけの前に置かれているものについてはデータとして採用した。

## 2-3 分析の対象とした文末表現

分析の対象とした文末表現は、以下の29種(=〈表現A〉とする)である。終助詞が中心であるが、観察の必要があると思われた助動詞も数種含めた。

あ／い／え／か／かしら／かしらん／こと／さ／ぜ／ぞ／たい(方言)／ちゃ／  
つけ／て／てば／とも／な／なあ／ね／ねえ／の／のう／ばい(方言)／まい／  
めえ／もの／や／よ／わ

さらに、これら〈表現A〉の下位分類として605種(=〈表現B〉とする)も設定した。605種の詳細については、184頁の【表Ⅱ】を参照されたい。

なお、〈表現B〉は原則として文末がどの語で終わっているかによって分類してある。分析方法によっては、たとえば〈かい／かえ／かな／かね／かの／かよ／のか／ですかな〉などは、〈か〉の下位分類として扱った方がよいかも

しれないが、本稿ではそのような扱いはしなかった。

### 3 分析

#### 3-1 男性語と女性語の種類

2の手順で作成したデータベースから、女性語を分析していくにあたり、まず「女性語」という語の意味を考えておく。

ある文末表現を男性語と女性語のどちらかに分類する際、男女両方に使用例があるものの処理を考えれば、次の4つに分類するのが適当だと思われる。

- ①女性だけが使用し、男性は使用しない絶対女性語
- ②男性だけが使用し、女性は使用しない絶対男性語
- ③男性よりも女性が多く使用する傾向のある相対女性語
- ④女性よりも男性が多く使用する傾向のある相対男性語<sup>(5)</sup>

したがって、単に「女性語」といっても、その中には「絶対女性語」と「相対女性語」の2種があることになる。本稿ではこの2種の女性語のうち、絶対女性語について考察していくことにする。

#### 3-2 絶対女性語の抽出

絶対女性語は、極端に言えば、男性の使用例が1例もないものである<sup>(6)</sup>。ここでは、本稿のとした絶対女性語の抽出方法について説明する。

##### 3-2-1 〈表現A〉による絶対女性語の抽出

まず〈表現A〉に着目して、各表現が何人の人物によって合計何例使用されているかを調べ、【表I 〈表現A〉の使用度数】(183頁参照)を作成した。各項目の説明は以下のとおりである。

- 表現A … 2-3で示した文末表現29種
- 総度数 … 使用したテキストに見られる総用例数
- 話手人数A… 〈表現A〉を使用する男性または女性の異なり人数
- 使用度数A… 〈表現A〉を使用する男性または女性の実用例数

この表から、男性の使用例が1例もない、絶対女性語として抽出できる表現は、〈表現A - こと／わ〉の2種であることがわかる。

### 3-2-2 〈表現B〉による絶対女性語の抽出

次に〈表現B〉に着目し、【表Ⅱ〈表現B〉の使用度数】(184頁参照)を作成した。これは、【表Ⅰ】で絶対女性語として抽出されなかった〈表現A〉を、下位分類〈表現B〉で分析してみた場合に、どのような〈表現B〉が絶対女性語として抽出されるかを調べたものである。各項目の説明は以下のとおり(なお、【表Ⅰ】と共通している項目は説明を省略)。

表現B … 〈表現A〉の下位分類605種  
話し手性別 … 話し手の性別  
話し手人数B… 〈表現B〉を用いる話し手の異なり人数  
使用度数B… 〈表現B〉を使用する男性または女性の用例数

さらに、この【表Ⅱ】から男性の使用例がみられないものだけを抜き出し、話し手の異なり数および用例数の多い順に並べたものが【表Ⅲ 女性だけが使用する文末表現】(187頁参照)である。【表Ⅲ】の各項目の説明は【表Ⅰ】、【表Ⅱ】と重複するので省略するが、表中、3-2-1ですでに絶対女性語として抽出されたものについては、網をかけて示してある。

さて、【表Ⅲ】から絶対女性語を抽出するには、ある基準を設定せねばならない。というのは、いくら女性の使用例しかないとはいえ、使用者が1人しかいない表現はその話し手の個性に負う可能性が高く、絶対女性語と認定しがたいからである。ある表現を絶対女性語とみなすためには、複数の人物に使用され、かつ用例も相当数あるというのが必要条件になろう。【表Ⅲ】において、話し手が1名しかいない表現をあらかじめ除外してあるのは、このためである。

ではその基準をどこに置くか、という問題が起こってくるが、本稿では仮の設定として、話し手が5人以上、かつ用例5例以上得られたものを絶対女性語として認め、その基準を満たさないものについては絶対女性語候補として保留することにした。もちろん、この基準が妥当であるかどうかは、他の著者による作品の分析結果をみてみなければわからないことであり、今後の分析結果如何によっては、設定基準の変更もありうる。

以上のような手続きを経て、合計33種、3-2-1ですでに抽出された〈こと／わ〉の類を除けば、新たに25種が絶対女性語として抽出されたことになる。〈表現A〉の分類によって整理して示そう。

■ 〈表現A〉による分析で、すでに抽出されていたもの8種

〈表現A - こと〉 → 〈表現B - こと / だこと〉

〈表現A - わ〉 → 〈表現B - わ / ですわ / だわ / ますわ / ませんわ /  
じゃないわ〉

■ 〈表現B〉による分析で、新たに抽出されたもの25種

〈表現A - て〉 → 〈表現B - て / なくて / 尊敬+て / なすって /  
お+になって〉

〈表現A - な〉 → 〈表現B - 尊敬+な (命令)〉

〈表現A - ね〉 → 〈表現B - のね / わね / ようね / 尊敬+のね / なのね /  
だわね〉

〈表現A - の〉 → 〈表現B - なの? / なの / お+なの? / なすったの? /  
じゃないの / なさるの?〉

〈表現A - よ〉 → 〈表現B - てよ / なのよ / じゃないのよ / 尊敬+よ (命令)  
/ なさいよ (命令) / わよ / 尊敬+てよ〉

【表Ⅱ】から、〈表現A〉の中で、女性の使用例しかみられなかった〈表現B〉を含むものは、〈表現A - あ / か / こと / さ / て / とも / な / ね / ねえ / の / よ / わ〉の12種あることがわかるが、先に述べた「話し手5人以上、用例5例以上」という基準をクリアできたのは、このうちのわずか7種ということになる。

真下1969は、「今日、婦人の用いるものにはつぎのようにたくさんある」として〈の<sup>(7)</sup> / え / の / よ / さ / わ / だわ / な / ね (ねえ)〉の9種、およびこれらが重なる場合として〈のよ / のさ / のだわ / のね (のねえ) / わよ / わね (わねえ) / だわね (だわねえ) / のだわね (のだわねえ)〉の8種を挙げている<sup>(8)</sup>が、真下のいう「今日」が明治時代を特定していないであろうことを差し引いても、真下の挙げた語のすべてを、女性がよく使う表現とするのは疑問である。少なくとも【表Ⅱ】をみた限りでは、〈さ〉は下位分類も含めて考えても、むしろ男性がよく用いる表現であるといえそうだし、〈え〉は確かに女性の使用例が多いことは多いが、全4例という数はよく使う表現とするには少なすぎる。よく使う表現であるかどうかを、ある程度数値的な裏付けをせずに判断するのは、極めて危険であろう。

## 4 各表現の考察

ここでは、〈表現A〉による分析で絶対女性語として抽出された〈表現A - こと／わ〉および、〈表現B〉による分析で抽出された各種の表現について、具体例を示しながら考察していく。

### 4-1 〈表現A〉による分析で絶対女性語として抽出されたもの

#### 4-1-1 〈表現A - こと〉

〈表現A - こと〉の用例には以下のようなものがある。作品名の後の数字は新潮文庫の頁である。また下線は寺田による。

- 「おやおや、まあ御珍らしい事」 [門44：佐伯叔母→野中宗助]
- 「大変御急ぎだ事」 [虞美人草95：甲野藤尾→宗近糸]
- 「御苦労様ですこと」 [猫367：苦沙弥妻→雪江]
- 「まあ御瘦せなすった事」 [道草78：親族の女→健三]
- 「まあ非道い事」 [明暗212：津田延子→岡本百合子]
- 「——何だか暖か過ぎる晩だこと」 [虞美人草259：井上小夜子→婆]
- 「好い御湯だった事？」 [門19：野中御米→野中宗助]
- 「大変旨い御茶でした事」 [虞美人草215：甲野藤尾→小野清三]
- 「好い香ですこと」 [それから232：平岡三千代→長井代助]
- 「厭な事」 [彼岸過迄234：田口千代子→田口要作]
- 「よくまあお一人でお留守居が出来ます事」 [行人86：岡田兼→長野直]
- 「どうも品数が足りない様だ事」 [猫374：苦沙弥妻→苦沙弥先生]
- 「能く覚えていらっしゃる事」 [三四郎153：里見美禰子→小川三四郎]

その他、用例数は少ないが、〈こと〉を含む〈表現B〉に、〈表現B - ことね／ですことねえ／なことねえ／ことよ〉がある。【表Ⅱ】をみると、いずれも話し手はすべて女性であることがわかる。このことから、〈こと〉それ自体に女性的な性格が備わっていると考えられるかと思う。

ところで、横田1977は現代東京下町の女性語の調査において、〈こと〉には女性度過多・気取りが感じられるのか、簡明・率直を好む現代下町女性の感覚とは相反関係が高いため、その使用については全面否定に近いと述べている<sup>(9)</sup>。このことは、裏返せば〈こと〉を使う女性が、おそらく日常的に丁寧な表現を用いていたと予想される上流階級に属していたということにもなる。もちろん、漱石の小説の時代とは言葉の様相も異なるであろうから、単純に比較する

ことはできないが、漱石の小説で〈こと〉を用いている人物は下に示す21人であり、聞き手が限定されているとはいえ、『道草』の比田夏以外はすべて、日常的に何かしらの敬語表現を用いている女性であった。

[猫] 金田鼻子／苦沙弥妻／雪江, [草枕] 志保田那美, [虞美人草] 甲野藤尾／甲野母／井上小夜子／宗近糸, [三四郎] 里見美禰子, [それから] 平岡三千代／長井梅子, [門] 野中御米／佐伯叔母, [彼岸過迄] 田口千代子, [行人] 長野直／岡田兼, [道草] 比田夏／親族の女, [明暗] 津田延子／堀秀子／関清子 合計21名

比田夏の用例は,

○「まあ珍らしく能く来てくれたこと」 [道草12：比田夏→健三]

の1例であるが、この女性の素性は健三の実姉であるということ以外、小説から判断することはできない。しかし、彼女の発話は全体的にかなりぞんざいであることは一読すればわかることである。

例外的なものが1例あるとはいえ、〈こと〉という文末表現を使う女性のほとんどが、日常的に他の敬語表現も並行して用いているということは、横田の報告した傾向が、すでに漱石の時代にも認められることを示していよう。

#### 4-1-2 〈表現A-わ〉

〈わ〉が女性的な表現であることは、小松1988<sup>(10)</sup>、横田1977<sup>(11)</sup>など、すでに多くの文献で述べられている。【表Ⅲ】をみると、〈表現B-わ〉の用例数が圧倒的に多く、さらに、〈表現B-ですわ／だわ／ますわ／ませんわ／じゃないわ〉の5種が絶対女性語の基準をクリアーしている。

このことから、少なくとも漱石の作品においては登場人物の女性らしさは終助詞〈わ〉によって代表されているということが出来る。他の著者による作品の分析結果からも、同様の結果を得ることが期待できよう。用例は以下のとおり。

- 「本当に帰っても宜う御座んすわ」 [虞美人草141：井上小夜子→井上孤堂]
- 「それでも御座いませんわ」 [行人17：岡田兼→長野二郎]
- 「そうね、そりゃ秀子さんの御随意で可ござんすわ」 [明暗320：津田延子→堀秀子]
- 「出して置けって、あんな立派な御召は御座んせんわ」

- [猫102：苦沙弥妻→苦沙弥先生]
- 「馬鹿じゃないわ」 [三四郎215：野々宮よし子→野々宮宗八]
- 「あら、だって、それじゃ余りだわ」 [それから161：長井梅子→長井誠吾]
- 「私もっと利口になりたいと思ってるんですわ」 [虞美人草223：宗近糸→甲野欽吾]
- 「あんな風に鷹揚に落ち付いていれば、——此間学校で演説をなすったわ」  
[猫361：雪江→苦沙弥妻]
- 「そうですとも、誰だって貴方の懐手ばかりして、舶来のパイプを銜えている所を見れば、心配になりますわ」 [彼岸過迄295：松本御仙→松本恒三]
- 「困っても仕方がありませんわ」 [道草247：御住→健三]
- 「貴方の様な不人情な人はこんな時には一層来ない方が可いわ」  
[彼岸過迄180：田口千代子→須永市蔵]
- 「そんな牛は存じませんわ」 [猫194：苦沙弥妻→迷亭]
- 「妾女だからそんなむずかしい理窟は知らないけれども、始めて伺ったわ」  
[行人224：長野直→長野一郎]
- 「いつもなら今時分はまだ寐ていらっしゃるんだわ」 [猫358：雪江→苦沙弥妻]
- 「二郎さんだって聞き飽きていらっしゃるわ」 [行人79：岡田兼→岡田]

なお、〈わ〉は訛って〈あ〉になる場合がある。〈あ〉に訛った形を話し手の性別ごとに挙げると、

- 女性のみが用いる→〈まさあね〉
- 男性のみが用いる→〈まさあ／らあ／わあ／らあな／だあな〉
- 男女ともに用いる→〈だあね／でさあね／らあね〉

となり、〈わ〉が〈あ〉と訛ることで男性の使用例もみられるようになることがわかる<sup>(12)</sup>。

#### 4-2 〈表現B〉による分析で絶対女性語として抽出されたもの

ここでは3-2-2で示した25種を扱うが、個々に論じることはせず、〈表現A〉の分類に合わせてまとめて考察していく。

##### 4-2-1 〈表現A-て〉 ～ 〈表現B-て／なくって／尊敬+て／なすって／お+になって〉～

- 「そんな事が出来て」 [それから262：平岡三千代→長井代助]
- 「夜中に宅が揺れやしなくって」 [行人169：長野直→長野一郎]

- 「何枚買って入らして」 [虞美人草139：井上小夜子→井上孤堂]  
 ○「今日は別館の奥さんはどうかなすって」 [明暗560：客女→番頭]  
 ○「貴方はその後清子さんにお会いになって」 [明暗416：吉川夫人→津田由雄]

小松1988は『三四郎』の分析結果に基づき、〈～て（質問）／てよ／頂戴／なの／体言+ね（終助詞）／のね／のよ／体言+よ／わ（だわ含）／わね〉を「女性語的」として、男の登場人物は使用しないとしている<sup>(13)</sup>。しかし、【表Ⅱ】〈表現A - て〉をみると、〈表現B - ですって〉に男性の使用例が2例あることがわかる。以下のような用例である。

- 「岡本へ行っちゃ何故不可いんですって」 [明暗65：津田由雄→藤井真事]  
 ○「何ですって」 [明暗162：岡本→津田延子]

逆にいえば、この2例があるために〈表現A - て〉が絶対女性語として抽出されなかったということにもなるのだが、〈ですって〉に男性の使用例がある以上、〈表現A - て〉を女性語として位置づけることはできない。〈て〉で終わる表現の中で、〈ですって〉、あるいは、今回の調査結果からは得られなかった〈だって〉などのような表現に限っては、男女共に使用するものとして位置づけられる可能性もあるが、結論を出すにはもう少しデータ数が必要である。

#### 4-2-2 〈表現A - な〉 ～ 〈表現B- 尊敬+な(命令)〉 ～

- 「でも、——じゃ行くから叔母さんも一所に入らっしゃいな」 [明暗141：津田延子→岡本住]

〈表現A - な〉に関しては全部で80種の〈表現B〉を設けたが、その中で女性の使用例が得られたのは、【表Ⅱ】によれば〈表現B - お+くださいますな（禁止）／お+な（命令）／お+なさいな（命令）／ござりましたそうな／ておくれな（命令）／てくださいな（命令）／てくださいますな（禁止）／てちょうだいな／な／なさいな（命令）／尊敬+な（命令）〉の11種である。これらを見ると、女性は〈な〉を命令、依頼、禁止の意味で用い、かつ敬語表現を併用している傾向があるといえる。〈な〉には他に感動を表す意味もあるが、少なくとも絶対女性語として抽出された中には入ってきていない。また、〈な〉を使った命令形として「～するな」という形もあるが、【表Ⅱ】をみた限りでは

女性の使用例は1例もない。

限定された意味で、しかも敬語表現を併用した形で、女性が〈な〉を使用するという現象が起こる理由の一つとして、〈な〉そのもの「男性的な要素」が含まれているのではないかということが考えられる。つまり〈な〉にはもともと「男性的な要素」があるために、女性が使用する場合は敬語表現によって緩和する必要があるという考え方である。当然、〈な〉は本当に男性的なのかという点が問題になるが、それは男性が用いる〈表現B〉の種類が73種（対する女性は11種）であることからもうかがえることであろう<sup>(14)</sup>。

もちろん、女性がわざわざ「男性的な要素」を緩和してまで〈な〉を使用する必要はないわけで、〈な〉に代わる表現が別に存在すると考えられる。単純に数値だけで判断するのは危険であるが、【表I】〈表現A - な〉における女性の使用度数36例という少ない数値が、このことを物語っているのではないかと思う。

#### 4-2-3 〈表現A - ね〉 ~ 〈表現B - のね／わね<sup>(15)</sup>／ようね／尊敬+のね／ なのね／だわね〉 ~

- 「脊が高いのね」 [三四郎112：里見美禰子→野々宮よし子]
- 「何処だか解らなくっちゃ詰らないわね」 [行人83：長野直→長野一郎]
- 「大変荒れた事、今年は例より寒いようね」 [道草220：御住→健三]
- 「貴方も相変らず呑気な事を仰しゃるのね」 [それから145：平岡三千代→長井代助]
- 「みんな逆なのね。」 [猫361：雪江→苦沙弥妻]
- 「分ったら余っ程奇体だわね」 [彼岸過迄237：田口千代子→高木]

〈表現A - ね〉に関しては全部で134種の〈表現B〉を設けた。【表II】によると、男性の使用例が得られたのは77種、女性の使用例が得られたのは104種あることがわかる。この数値をみた限りでは、〈ね〉は女性的な性格の強い表現であるといえそうであるが、【表I】〈表現A - ね〉の男性の使用度数1983例という数値には、そう早計に判断してはならない重みがある。男性が〈ね〉を使用するのはどういう場合なのかを検討してみる必要があるが、それについては別の機会に譲る。

ところで、〈わ〉が女性的な表現であることというのは4-1-2でもふれた。

ここに挙げた他にも〈わ〉を含む形として、〈表現B - じゃないわね／だったわね／ですわね／ますわね／ませんわね〉があるが、用例が少ないとはいえ、いずれも使用者は女性であり、〈わ〉が女性専用の表現であることを裏付けている。

また〈の〉と〈ね〉が接続した形も3種抽出されているが、〈の〉に女性的な性格があるかどうかについては、4-2-4で考察したい。

#### 4-2-4 〈表現A - の〉 ～ 〈表現B - なの？／なの／お+なの？／ なすったの？／じゃないの／なさるの？〉～

- 「その事って、どんな事なの」 [明暗387：堀秀子→津田延子]
- 「ええ、高等モデルなの」 [三四郎190：里見美禰子→小川三四郎]
- 「貴方、この花、御嫌なの？」 [それから143：平岡三千代→長井代助]
- 「どうか、なすったの」 [虞美人草89：甲野藤尾→小野清三]
- 「幸福でも気楽じゃないの」 [明暗208：岡本継子→津田延子]
- 「——それを聞いて何になさるの」 [虞美人草305：宗近糸→宗近一]

〈表現A - の〉に関しては全部で41種の〈表現B〉を設けたが、【表Ⅱ】によればその中で男性の使用例が得られたのは13種、女性の使用例が得られたのは32種であった。〈の〉を文末にもつ表現としては女性の方が圧倒的に種類が多い。また【表Ⅰ】〈表現A - の〉の数値も、女性の使用度数が男性のそれをはるかに上回っている。さらに改めて【表Ⅲ】をみると、〈の〉を含む〈表現B〉が計11種含まれていることがわかる。このことから、〈表現A - の〉自体は極めて女性的な性格が強いということができると思う。

ただ、〈の〉が女性的な性格が強いであろうとはいえ、男性の使用例が全くない訳ではない。〈ね〉の場合と同様、どのような場合に男性が〈の〉を用いるのか、男性の用例を検討してみる必要がある。

#### 4-2-5 〈表現A - よ〉 ～ 〈表現B - てよ／なのよ／じゃないのよ／尊敬+よ (命令)／なさいよ (命令)／わよ／尊敬+てよ〉～

- 「そんな事が知れると免職になってよ」 [猫374：雪江→苦沙弥先生]
- 「ただ貴方はそういう事をなさる方なのよ」 [明暗589：関清子→津田由雄]
- 「皮肉じゃないのよ」 [それから101：長井梅子→長井代助]

- |                             |                   |
|-----------------------------|-------------------|
| ○「だまって聴いて <u>いらっしやいよ</u> 」  | [猫204：苦沙弥妻→苦沙弥先生] |
| ○「——汚さない様にな <u>さいよ</u> 」    | [虞美人草37：甲野母→甲野藤尾] |
| ○「馬鹿でも可 <u>いわよ</u> 」        | [行人332：長野重→長野二郎]  |
| ○「御兄いさんも困って <u>いらしってよ</u> 」 | [道草260：御住→健三]     |

〈表現A - よ〉に関しては全部で72種の〈表現B〉を設けた。【表Ⅱ】によれば、男性の使用例が得られたのは24種、女性の使用例が得られたのは65種である。表現の種類としては女性の方が圧倒的に多いが、【表Ⅰ】〈表現A - よ〉をみると男性の〈よ〉の使用度数もかなり高く、〈よ〉が女性的性格を持つ語であるとする事はできない。

ここで挙げた〈表現B〉7種のうち3種については、先に女性的性格が強いとした〈わ／の〉を伴う表現であり、絶対女性語として抽出されたことにも説明がつく。

注目すべきは〈てよ〉を含む表現が2種、抽出されていることである。〈てよ〉が、女性特有の表現ではあるが当時「聞きにくい言葉」として、どちらかといえば非難される傾向にあったことはすでに報告されていることである<sup>(10)</sup>が、【表Ⅲ】をみてもわかるとおり、使用度数からすれば比較的上位に位置づけられており、表現としては決して特殊なものではなかったことがわかる。

## 5 おわりに

以上、漱石の小説における会話文の文末表現を分析してきた。分析の結果、いくつかの文末表現が絶対女性語として抽出されたわけだが、調査対象を漱石の作品に限定しているため、今回の結果が明治末期の女性語そのものであると断定することはできない。さらに、漱石の小説に登場する人物の大半が知識階級であって非知識階級のデータが乏しいこと、女性に関していえば比較的年齢層が偏っていること、などもデータを読みとっていく前提として忘れてはならないことである。

このように、漱石の小説のみを用いて、明治末期の女性語あるいは男性語について述べていくのは問題も多い。今後は同時代の他の著者の作品との比較を行い、漱石の小説からは得られない階層の人物のデータなども補いつつ、さらに考察を続けていくつもりである。

## 【注】

- (1) 沢潟1948は万葉集にみられる男女間の呼称だけでなく、敬称および敬語の一部にみられる性差について考察した。
- (2) 小松1988は『三四郎』に見られる言葉の男女差を、終助詞を中心に考察してそれらが江戸語でどうなっているかをまとめ、東京語の終助詞の男女差は江戸語のそれと一致しないことを明らかにしている。
- (3) 山本1971は「明治大正の小説の女性の対話の場合、江戸っ児～東京育ちの線で、会話を苦心した作家には尾崎紅葉・広津柳浪・夏目漱石らがあり、特に会話に留意苦心した人々だから、その小説を読む場合、そこに注意して読み、殊に東京の女性語の成立の考察にあたってはぜひ必要なことと思うのである」(1頁)としている。
- (4) 田中1973は「文末助詞・句末助詞の類は、使う人のイメージすなわち、性別や年齢さらには身分・教養といったものまで浮き彫りにしてくる。その中で、特に著しいのが性別である。」(242頁)と述べている。
- (5) 「絶対女性語」「相対女性語」は本堂1970で使用されていた用語である。本堂は北奥方言にみられる女性語を、「女性のみが使用し男性は絶対に使用することがないという絶対女性語」と「男性よりも女性が多く使用するという相対女性語」の2つに分類し、考察を行っている。
- (6) 例えば例外が1例だけあるという場合、常識的に、あるいは自らの言語感覚で考えて、例外として扱うべきものも当然存在すると思われる。今回は例え1例であっても、それは絶対女性語とは認めない立場をとった。
- (7) 疑問の〈の〉。真下は用例として「まあ奥様、草取りでございませぬの」を挙げている。
- (8) 真下1969, 55頁。
- (9) 横田1977, 56頁。横田は「商店経営中流層の30～40代の女性」を対象として調査を行っている。
- (10) 小松1988は「東京語では、活用語に付く～ワは女性の言葉の重要な特色である。他の終助詞が活用語に付くとき、「ワ」の有無が男女差を決定する」(100頁)としている。
- (11) 横田1977は「近代への継承の当初、すべての「ワ」型表現は、近代の中産階級女性によって脱近世的表現の象徴として意識され、教養を自負する彼女達特有の丁寧さとか優美さなどの雰囲気と大仰に結合した感がある。」(54頁)としている。
- (12) 〈わ〉の代わりに〈あ〉を用いている女性は、[猫] 苦沙弥妻・金田鼻子・下女、[虞美人草] 甲野母、[門] 佐伯叔母、[道草] 御住・比田夏、[明暗] 吉川夫人であった。比較的年齢層の高い女性が使うという印象を受ける。
- (13) 小松1988, 95頁。
- (14) 中野1991は「明和～享和期という、早い時期の作品においては、かなり広い範囲にわたって、女性の「な」の使用が見られるが、文化・文政期以降の作品になると、喧嘩の場面など、相手をののしるような、非常にぞんざいな発言や、対自的な発言の場

合を除けば、命令文、平叙文+終助詞「わ」、反語の疑問文、非難の疑問文、感動詞「これ」、という五種類の上接部に、下接する場合に限られるようになり、女性の「な」の使用の範囲の狭まりが認められる」(53頁)、鈴木1998は「明治末期までは、一応女性も「な」を用いていたと言える。大正期以降の、女性の用いる「な」は、もっぱら「下さいな」「なさいな」のように、丁寧な命令・以来の表現に付く用法に限られてくる」として、いずれも〈な〉が男性的性格の強い表現であることを示唆している。

- (15) 鈴木1998は『安愚楽鍋』『当世書生氣質』『浮雲』には〈わね〉が見られたが、その後〈わね〉の用例が『伸子』までは得られなかったとして、「明治後期から大正期にかけては、〈わね〉は見られない」(156頁)と述べている。しかし今回の調査で漱石の作品に「わね」の用例は51例あることが確認された。
- (16) 真下1969, 58頁。石川1972, 22頁～。小松1988, 104頁など。

### 【参考文献】

- 石川禎紀 (1972) 「近代女性語の語尾—「てよ・だわ・のよ」 解釈18-10
- 沢瀉久孝 (1948) 「万葉集に於ける男女のことば」『万葉集新釈 改訂版 下巻』星野書店
- 小松寿雄 (1988) 「東京語における男女差の形成—終助詞を中心として」国語と国文学 65-11
- 鈴木英夫 (1998) 「現代日本語における女性の文末詞」『日本語文末詞の歴史的研究』(佐々木峻・藤原与一編) 三弥井書店
- 田中章夫 (1973) 「終助詞と間投助詞」『品詞別日本文法講座9 助詞』明治書院
- 中野伸彦 (1991) 「江戸語における終助詞の男女差—女性による「な」の使用について」国語と国文学68-4
- 本堂 寛 (1970) 「文頭表現・文末表現に示される女性語意識—主として北奥方言について」国語学研究10
- 真下三郎 (1969) 『婦人語の研究』東京堂出版
- 山本正秀 (1971) 「近代小説の女性語」 解釈17-12
- 横田 貢 (1977) 「続東京下町女性語管見—その変化の一様相」東京成徳短大紀要10

【表 I 〈表現 A〉 使用度数】

表現 A	総 度 数	男 性		女 性	
		話手人数 A	使用度数 A	話手人数 A	使用度数 A
あ	91	22	86	5	5
い	678	46	603	12	75
え	4	1	1	2	3
か	2501	93	1950	48	551
かしら	38	14	22	10	16
かしらん	11	8	10	1	1
こと	47	0	0	21	47
さ	708	55	651	14	57
ぜ	186	38	185	1	1
ぞ	16	7	16	0	0
たい	11	1	11	0	0
ちゃ	47	20	24	11	23
っけ	9	7	8	1	1
て	148	2	2	25	146
てば	1	0	0	1	1
とも	24	8	11	10	13
な	710	68	674	19	36
なあ	51	25	50	1	1
ね	2726	89	1983	51	743
ねえ	39	7	9	12	30
の	464	12	35	36	429
のう	9	2	7	1	2
ばい	11	1	11	0	0
まい	60	27	51	8	9
めえ	6	3	6	0	0
もの	203	22	60	29	143
や	34	16	32	2	2
よ	2194	80	1223	53	971
わ	434	0	0	30	434
(合 計)	11461		7721		3740

【表Ⅱ 〈表現B〉の使用度数】

表現A	表現B	話し手性別	話し手人数B	使用度数B	総度数		
あ	あ	女	2	2	91		
	お+になっちゃあ	女	1	1			
	かあ	男	1	1			
	さあ	男	1	1			
	ざあ	男	2	2			
	ちああ	男	6	6			
	でさあ	女	13	48			
	まさあ	女	1	1			
	らあ	男	5	11			
	わあ	男	8	16			
い	い	男	8	11	678		
	うがすかい	女	3	4			
	お+かい	男	1	1			
	お+になるかい	女	2	4			
	お+のかい	女	1	1			
	かい	女	40	237			
		女	11	35			
	だい	女	27	151			
		女	6	11			
	てくれたのかい	女	1	1			
	てくれるかい	男	2	3			
	てくれるのかい	男	1	1			
	でしたかい	女	1	1			
	ですかい	男	1	1			
	なすったのかい	男	1	1			
	なのかい	男	7	9			
		女	1	2			
	のかい	女	31	167			
		女	5	16			
	のだい	女	8	12			
	ましたかい	男	1	1			
	ますかい	女	2	2			
		女	1	1			
	わい	男	1	1			
	尊敬+のかい	男	1	1			
	え	かえ	男	1		1	4
			女	2		3	
	か	あそばしましたか	女	1		1	2501
		うがすか	男	1		1	
		うございますか	男	2		2	
		女	1	1			
うござんすか		男	1	1			
お+か		男	1	1			
		女	1	1			
お+でございますか		女	1	1			
お+でしたか		女	2	2			
お+ですか		男	18	38			
		女	2	2			
お+なかつたのですか		男	1	1			
お+なさるか		男	1	1			
お+なさるんですか		男	1	1			
お+なすったじゃありませんか		女	2	2			
お+なのですか		男	1	2			
お+になさいますか		女	1	1			
お+になったのですか		男	1	1			
お+になったのですか		男	1	1			
お+になったんじゃないのですか		男	1	1			
お+になったんですか		男	3	4			
		女	1	1			
お+にならないのですか		女	1	1			
お+にならないんですか		男	1	1			
お+になりましたか		男	3	4			
		女	2	3			
お+になりますか		女	1	2			
お+になりませんか		女	2	3			
		女	1	1			
お+になるのですか		女	1	1			
お+になるんでございますか		女	1	1			
お+になるんですか		男	1	1			
お+謙讓+ましようか		男	1	1			
		女	1	1			
お+謙讓+ますか		女	2	2			
		女	2	2			
か		女	51	380			
		女	6	9			
くれないのか		女	1	1			
くんなさらんか		男	1	1			
ございましたか		男	1	1			
ございますまいか		男	1	1			

表現A	表現B	話し手性別	話し手人数B	使用度数B	総度数
か	ごさいませんか	女	1	1	2501
	ござんすか	女	3	3	
		女	4	8	
	ござんせんか	女	1	1	
	じゃありませんか	女	1	1	
		女	1	1	
	じゃありませんか	女	1	1	
		女	28	106	
	じゃありませんか	女	25	223	
	じゃございせんか	女	4	6	
	じゃないか	男	48	408	
		女	8	41	
	じゃないですか	男	10	12	
	じゃないのか	男	4	5	
	じゃねえか	男	1	1	
	だか	男	4	4	
		女	3	3	
	だろうか	男	9	10	
	てくださいますか	男	2	2	
	てくださいませんか	男	4	4	
	てくださいったでしょうか	女	1	1	
	てくださいらんか	女	1	1	
	てくださいったでしょうか	女	1	1	
	てくれないか	女	6	10	
	てくれませんか	男	1	1	
	てくれませんか	女	6	7	
	てくれるのですか	男	1	1	
	てくんなさらんか	男	1	1	
	でございしましたか	女	1	1	
	でございましょうか	女	1	1	
		女	2	2	
	でございますか	女	4	4	
	でしたか	男	5	9	
		女	1	1	
	でしょうか	女	23	50	
		女	13	42	
	ですか	女	49	438	
		女	17	65	
	ではありませんか	女	1	1	
	ではございせんか	女	1	3	
	ではないか	女	1	1	
		女	1	2	
	なさいましたか	女	3	3	
	なさいますか	男	1	1	
	なさつたか	男	1	1	
	なさつたんですか	女	1	1	
	なさらないんですか	男	1	1	
	なさらんか	男	1	2	
	なさるか	男	1	4	
	なさるんですか	女	1	1	
なすつたか	女	1	1		
なすつたんですか	男	2	2		
	女	3	3		
なのか	男	5	8		
なものか	男	1	1		
のか	男	26	121		
まいか	女	1	1		
ましたか	女	14	30		
	女	3	4		
ましようか	女	25	41		
	女	20	47		
ますか	女	20	71		
	女	8	11		
ますまいか	女	3	5		
	女	2	2		
ませんか	女	20	35		
	女	2	3		
ものか	女	22	58		
	女	1	1		
ものですか	男	4	4		
	女	3	5		
もんか	男	11	15		
もんですか	男	5	6		
	女	11	20		
謙讓+か	男	1	1		
謙讓+ですか	男	1	1		
謙讓+ますか	男	1	1		
謙讓+ますまいか	男	1	1		
尊敬+か	女	2	2		
尊敬+でございますか	女	1	1		
尊敬+ですか	男	6	7		
	女	7	9		
尊敬+ますか	女	1	1		
	女	1	1		
尊敬+ませんか	女	1	1		

表現A	表現B	話し手性別	話し手人数B	使用度数B	総度数		
かしら	かしら	男	12	15	38		
	でしようかしら	女	6	12			
		女	1	1			
	ですかしら	女	1	1			
		女	2	2			
	なのかしら	女	1	1			
	のかしら	男	4	4			
	ますかしら	女	1	1			
	かしらん	女	6	8			
		女	1	1			
かしらん	じゃないかしらん	男	1	1	11		
	謙讓+ますかしらん	男	1	1			
	お+こと	女	1	1			
	お+だこと	女	3	3			
	お+ですこと	女	3	4			
	お+なすつたこと	女	2	2			
	こと	女	10	15			
	だこと	女	7	10			
	だったこと?	女	1	1			
	でしたこと	女	1	1			
ですこと	女	3	3				
なこと	女	1	1				
ますこと	女	1	1				
ようだこと	女	2	2				
尊敬+こと	女	3	3				
さ	くれたのさ	男	1	1	708		
	さ	男	47	290			
		女	8	18			
	だからさ	男	9	12			
		女	3	3			
	ださ	男	4	4			
	だとき	男	8	13			
	てえばさ	女	1	1			
	でしようさ	女	1	2			
	ですからさ	女	1	1			
ですとさ	女	3	11				
とさ	男	3	5				
	女	2	2				
のさ	男	34	148				
	女	5	12				
ますさ	女	1	1				
名詞+さ	男	38	178				
	女	3	6				
ぜ	うがすぜ	男	1	1	186		
	お+なすつたぜ	男	1	1			
	ぜ	男	21	84			
	だぜ	男	15	62			
	だつたぜ	男	3	3			
	てくだつたぜ	男	1	1			
	ですぜ	男	12	20			
	ましたぜ	男	3	4			
	ますぜ	男	4	5			
		女	1	1			
ぞ	ませんぜ	男	4	4	16		
	ぞ	男	6	14			
	ぞ(反語)	男	1	1			
	てくれないぞ	男	1	1			
	たい(方言)	男	1	11			
	ちや	お+なすつちや	男	1		1	47
		お+になつちや	男	1		1	
		ちや	男	17		20	
			女	11		20	
		ちや	男	1		1	
てくださなくつちや		男	2	2			
		女	1	1			
てくなくつちや		女	1	1			
つけ		男	7	8			
ますつけ		女	1	1			
つて	お+じゃなくつて	女	1	1	148		
	お+なさらなくつて	女	1	2			
	お+なさりやしくつて	女	1	1			
	お+なすつて	女	1	1			
	お+になつたんですつて	女	1	1			
	お+になつて	女	5	5			
	じゃなくつて	女	3	7			
	て	女	13	43			
	てくださなくつて	女	1	1			
	てくださるんじやなくつて	女	1	1			
て	女	1	1				
てくだすつて	女	1	1				
ですつて	女	2	2				
	女	14	37				
なくつて	女	11	19				

【表Ⅱ 〈表現B〉の使用度数】

表現A	表現B	話手性別	話手人数B	使用度数B	総度数		
て	なさるんじゃないかって	女	1	1	148		
	なさるんですって	女	1	1			
	なすったんですって	女	2	2			
	なすって	女	6	8			
	尊敬+て	女	11	14			
	てば	女	1	1			
	てばとも	お+なさいとも	女	1		1	24
		ごさんすとも	女	3		3	
		だとも	男	2		2	
			女	1		1	
		でございませとも	女	2		2	
		でしょうとも	女	1		1	
		ですとも	男	3		3	
			女	2		2	
とも		男	4	5			
ますとも		男	1	1			
		女	2	2			
尊敬+とも		女	1	1			
うがしたな		男	1	2	710		
うがすかな		男	1	1			
お+がしたな	男	1	1				
お+がすな	男	1	1				
お+くくださいますな(禁止)	女	1	1				
お+な(命令)	男	3	5				
	女	3	5				
お+なさいな(命令)	男	1	1				
	女	6	9				
かいな	男	1	1				
かな	男	24	88				
からな	男	10	18				
がな	男	6	12				
がな(方言)	男	2	4				
ござりましたそうな	女	1	1				
ござんせんかな	男	1	1				
ござんせんな	男	1	1				
さな	男	7	12				
じゃあるまいな	男	1	2				
じゃからな	男	1	1				
じゃがな	男	1	1				
じゃな	男	3	5				
じゃないのかな	男	1	1				
じゃなからう	男	1	1				
じゃなからうな	男	1	1				
だあな	男	3	4				
だからな	男	15	30				
だがな	男	8	14				
だげな	男	1	1				
だったがな	男	1	1				
だったな	男	2	2				
だな	男	22	105				
だろうからな	男	1	1				
だろうな	男	6	7				
つけかな	男	2	2				
つけな	男	2	3				
ておくれかな	男	1	1				
ておくれな(命令)	女	3	4				
てくださいな(命令)	男	1	1				
	女	2	2				
てくださいますな(禁止)	女	1	1				
てくれたまえな(命令)	男	1	1				
てくれたもうな(禁止)	男	1	1				
てくれるな(禁止)	男	2	4				
てくれるな(命令)	男	1	1				
てくれんな	男	1	1				
てちょうだいな	女	2	2				
でがすな	男	1	1				
でござんしたな	男	1	1				
でござんすそうな	男	1	1				
でしたからな	男	1	1				
でしたな	男	3	4				
でしょうな	男	2	2				
ですかな	男	5	8				
ですからな	男	8	14				
ですがな	男	1	1				
ですな	男	22	63				
ではありませんからな	男	1	1				
な	男	39	129				
	女	3	3				
な(禁止)	男	9	26				
な(命令)	男	1	1				
なさいな(命令)	男	1	1				
なさいますな	男	1	1				

表現A	表現B	話手性別	話手人数B	使用度数B	総度数				
な	なさったそうですか	男	1	1	710				
	なさんな(禁止)	男	1	1					
	なのかな	男	3	3					
	なものかな	男	2	2					
	のかな	男	11	14					
	まいな	男	2	2					
	ましたがな	男	1	2					
	ましたな	男	7	10					
	ますかな	男	7	9					
	ますからな	男	2	4					
	ますがな	男	1	1					
	ますな	男	9	15					
	ますまいな	男	1	1					
	ませんな	男	1	1					
	ませんな	男	4	8					
	ものかな	男	3	3					
	もんかな	男	1	1					
	らあな	男	1	1					
	尊敬+な	男	1	1					
	尊敬+な(命令)	女	6	7					
	なあ	かなあ	男	4		4	51		
		さなあ	男	2		2			
		だがなあ	男	1		1			
		だなあ	男	12		20			
		ですなあ	男	2		2			
		なあ	男	13		14			
			女	1		1			
		のかなあ	男	3		4			
		ますなあ	男	2		2			
		よなあ	男	1		1			
		ね	うございましてね	女		1		1	2726
			うございますね	男		1		1	
うござんすね			女	1	1				
お+なさいましてね			女	1	1				
お+なさるんですね	女		1	1					
お+なつたのね	女		1	1					
お+なね	女		1	1					
お+なのね	女		1	1					
お+になったでしょうね	女		1	1					
お+にならんそうですね	男		1	1					
お+になりましたね	女		1	1					
お+になりましたね	女		1	1					
お+ね	女		2	2					
お+のね	女		2	2					
かね	男		32	147					
	女		2	5					
からね	男		26	58					
	女		6	14					
がね	男		31	90					
	女		3	7					
けれどもね	女		1	1					
ことね	女		2	2					
ございませぬね	女	2	2						
さね	男	13	17						
	女	3	5						
じゃありませんね	男	2	2						
じゃあるまいね	男	1	1						
じゃないかね	男	1	2						
じゃないからね	男	1	1						
じゃないね	男	2	2						
じゃないのかね	男	1	1						
じゃないのね	女	2	2						
じゃないわね	女	1	1						
じゃねえね	男	1	2						
じゃねえんだね	男	1	1						
そうね	女	1	1						
たあね	男	1	1						
だあね	男	13	20						
	女	2	4						
だかね	男	2	2						
だからね	男	34	83						
	女	8	21						
だかね	男	23	53						
	女	5	13						
だけね	女	2	2						
だけれどもね	女	1	1						
だったかね	男	5	5						
	女	1	2						
だったからね	男	2	2						
だったしね	男	1	1						
だったね	男	10	14						
	女	1	2						
だったのにね	女	2	2						
だったわね	女	1	1						
だってね	男	10	14						

表現A	表現B	話手性別	話手人数B	使用度数B	総度数
ね	だつてね	女	1	1	2726
	だね	女	47	385	
		男	4	18	
	だのにね	男	1	1	
	だろうからね	男	2	2	
	だろうね	男	12	18	
		女	3	6	
	だわね	女	6	7	
	つけね	女	4	4	
		男	1	1	
	てくださるでしょうね	女	1	1	
	てくださるんですね	女	1	1	
	てくださったんですね	女	1	1	
	てくれないね	女	1	1	
でございましたね	女	1	1		
でございましょうかね	女	1	1		
でございましょうね	女	1	1		
でございませがね	女	1	1		
でございませね	女	4	5		
でござんすね	女	1	1		
でさあね	女	1	1		
	男	5	5		
でしたかね	女	2	3		
	女	4	4		
でしたからね	女	1	1		
でしたってね	女	1	1		
でしたね	男	7	11		
	女	1	1		
でしたらうね	男	1	1		
でしてね	男	4	5		
	女	2	2		
でしょうかね	女	3	3		
	女	3	4		
でしょうからね	女	2	2		
でしょうけれどもね	女	1	1		
	女	2	2		
でしょうにね	女	1	1		
でしょうね	女	14	21		
	男	11	16		
ですかね	女	9	19		
	女	4	5		
ですからね	女	17	33		
	女	5	9		
ですがね	女	20	37		
	女	7	10		
ですけれどもね	女	2	2		
ですってね	男	1	2		
	女	2	3		
ですな	男	45	197		
	女	20	46		
ですわね	女	1	1		
でね	男	23	44		
	女	8	13		
ではありませんね	男	1	1		
とかね	男	2	2		
なさるそうですね	男	1	1		
なさるのね	女	2	3		
なさるんですってね	女	1	1		
なさるんですね	男	1	1		
なさるんですね	女	1	1		
なすったそうですね	男	1	2		
なのかね	男	3	3		
	女	1	1		
なのね	女	7	9		
なものかね	女	1	1		
にね	男	5	6		
	女	7	9		
ね	男	55	387		
	女	26	86		
のかね	男	17	37		
	女	2	3		
のにね	女	1	1		
のね	女	24	82		
まいね	男	2	2		
	女	2	2		
まさあね	女	3	3		
ましたかね	男	1	1		
ましたからね	男	1	1		
ましたね	男	20	41		
	女	7	8		
ましてね	女	6	15		
	女	4	6		
ましようかね	男	4	4		
ましようね	女	1	1		
ますかね	男	4	6		

【表Ⅱ 〈表現B〉の使用度数】

表現A	表現B	話手性別	話手人数B	使用度数B	総度数		
ね	ますからね	男	10	13	2726		
		女	4	4			
	ますがね	男	6	8			
		女	2	2			
	ますとね	女	1	1			
	ますね	女	26	54			
		女	7	8			
	ますまいね	男	1	1			
		女	1	1			
	ますものかね	女	1	1			
	ますわね	女	1	1			
	ませんかね	女	3	4			
		女	1	1			
	ませんからね	女	5	6			
		女	2	2			
	ませんけれどもね	男	1	1			
		女	1	1			
	ませんね	女	18	28			
		女	8	12			
	ませんやね	男	1	1			
		女	2	2			
	ませんわね	女	2	2			
	ものかね	女	7	11			
		女	3	4			
	もんかね	女	5	5			
	やあね	女	1	1			
	やね	女	9	15			
		女	4	7			
	ようね	女	11	16			
	らあね	女	5	8			
		女	1	2			
	わあね	男	1	1			
	わね	女	16	51			
	謙讓+ましてね	女	1	1			
	尊敬+ね	女	3	3			
	尊敬+のね	女	11	16			
	尊敬+ましたね	女	2	2			
	尊敬+ましてね	女	1	1			
	尊敬+ましようね	女	1	1			
	名詞+ね	男	4	5			
		女	22	109			
	ねえ	だからねえ	男	1		1	39
			女	1		1	
		だねえ	女	2		2	
			女	1		1	
		でございましょうかねえ	女	1		1	
		でございましょうがねえ	女	1		1	
		でございましょうどもねえ	女	1		1	
		え					
		でございましてねえ	女	1		1	
でございましてねえ		女	1	1			
でてねえ		女	1	1			
ですかねえ		男	1	1			
ですがねえ		女	3	4			
ですことねえ		女	1	2			
ですねえ		男	2	2			
		女	3	4			
ですわねえ		女	1	1			
なことねえ		女	1	1			
ねえ		女	1	1			
		女	5	6			
ねえ(命令)		男	1	2			
ますねえ		女	1	1			
わねえ		女	3	3			
の		お+だったの?	女	2	3	464	
		お+ないの?	女	1	1		
		お+なさらないの?	女	1	1		
		お+なさらないかつたの?	女	1	1		
	お+なの?	女	1	1			
	お+なの?	女	7	12			
	お+になつたの?	女	3	5			
	お+にならないの?	女	2	2			
	お+にならなかつたの?	女	2	2			
	お+にならんかの?	女	1	1			
	お+になりたいの?	女	1	1			
	お+になるの?	女	3	5			
	お+の?	女	1	1			
	かいの	男	1	1			
	かの	男	2	6			
	がの	男	1	1			
	じゃないかの	男	1	1			
	じゃないの	男	5	7			
	じゃないの?	男	2	5			
		女	5	10			
	じゃの	男	2	2			

表現A	表現B	話手性別	話手人数B	使用度数B	総度数				
の	てくださらなかつたの	女	1	1	464				
	てくださったの	女	1	1					
	てくれたの	女	1	1					
	てくれたの?	女	1	1					
	てくれなかつたんですの	女	1	1					
	ての	男	2	2					
	ですの	女	1	1					
	とるの	女	1	1					
	なさらなかつたんじやないの?	女	1	1					
	なさるの?	女	5	6					
	なすつたの?	女	5	10					
	なの?	女	11	18					
	なの?	女	16	55					
	にの	男	1	1					
	の	男	1	3					
		女	19	52					
	の?	女	6	10					
		女	31	171					
	ますの	女	2	2					
	謙讓+ますの	女	1	1					
	尊敬+じやないの?	女	2	2					
	尊敬+の	女	1	1					
		男	14	52					
	のう	女	2	7					
		女	1	2					
	う	ばい(方言)	男	1		11	9		
			女	1		2			
		まい	ございませまい	女		1		1	60
			じやありませんまい	男		1		1	
			じやあるまい	男		1		1	
				女		1		1	
			まい	男		25		44	
				女		2		2	
			ますまい	女		3		4	
				女		4		4	
謙讓+ますまい	女		1	1					
	女		1	1					
めえ	めえ	男	3	6	6				
		女	1	1					
もの	お+なさりやしませんもの	女	1	1	203				
	だもの	男	20	43					
		女	7	9					
	てくださるんですもの	女	1	1					
	でござんす	女	1	1					
	ですもの	男	5	10					
		女	22	122					
	でないもの	男	1	1					
	なさらないんだもの	女	1	1					
	なさらないんですもの	女	1	1					
	なさるんですもの	女	1	1					
	ますもの	女	1	1					
	ませんもの	女	1	1					
		女	3	5					
	もの	男	4	5					
や	ませんや	男	1	4	34				
	や	男	14	27					
	や(呼びかけ)	男	1	1					
よ	お+あそばせよ	女	1	1	2194				
	お+なさいよ(命令)	女	2	2					
		女	13	23					
	お+なさらないからですよ	女	1	1					
	お+なんでしょうよ	女	1	1					
	お+よ	女	4	5					
	お+よ(命令)	男	5	13					
		女	5	16					
	おくれよ(命令)	女	1	1					
	からよ	女	1	3					
ことよ	女	1	1						
ございませよ	女	1	1						
ございませんよ	女	1	1						
ござんすよ	女	3	3						
じやありませんよ	男	4	5						
	女	5	6						
じやあるまいよ	女	1	1						
じやないのよ	女	13	26						
じやないよ	女	12	27						
	女	3	4						
じやないわよ	女	2	2						
じやなくつてよ	女	2	3						
だからよ	女	3	3						

表現A	表現B	話手性別	話手人数B	使用度数B	総度数
よ	だぞよ	男	1	1	2194
	だったよ	男	2	2	
	だよ	男	42	340	
		女	15	69	
	だろうよ	女	9	15	
		女	1	1	
	ておくれよ(命令)	女	1	1	
	てくださいよ	女	1	2	
	てくれたのよ	女	1	1	
	てくれますよ	男	1	1	
		女	1	1	
	てくれるよ	女	1	1	
	てちょうだいよ	女	1	3	
	てよ	女	13	41	
	でございませよ	女	3	9	
	でござんすよ	女	1	1	
	でしたよ	女	3	3	
	でしょうよ	男	2	2	
		男	5	7	
	ですよ	女	41	158	
		女	28	118	
	ではありませんよ	女	1	1	
	なさいましよ(命令)	女	1	1	
	なさいよ(命令)	女	6	7	
	なさらないわよ	女	1	1	
	なさるからよ	女	2	2	
	なさるんですよ	男	1	1	
	なすつたんですよ	女	1	1	
	なのよ	女	13	27	
	のかよ	女	1	1	
	のだよ	女	7	10	
		女	1	2	
	のよ	男	1	1	
		女	22	167	
	まいよ	男	3	3	
		女	1	1	
	ましたよ	女	15	30	
		女	9	11	
	ましようよ	女	2	2	
	ますまいよ	女	1	1	
	ますよ	男	24	54	
		女	16	42	
	ませんでしたよ	男	1	1	
	ませんよ	男	28	57	
		女	13	19	
よ	男	55	489		
	女	28	110		
ようよ	女	2	2		
わよ	女	5	7		
謙讓+のよ	女	1	1		
謙讓+ましたよ	女	1	1		
謙讓+ますよ	女	2	2		
謙讓+ませんよ	女	1	1		
尊敬+からよ	女	1	1		
尊敬+てよ	女	5	5		
尊敬+ですよ	女	2	3		
尊敬+ないのよ	女	1	1		
尊敬+なよ(禁止)	女	1	1		
尊敬+のよ	女	3	4		
尊敬+ましたよ	女	1	4		
尊敬+ますよ	女	3	3		
尊敬+よ	女	1	1		
尊敬+よ(命令)	女	9	13		
名詞+のよ	女	4	4		
名詞+よ	女	4	6		
	女	23	166		
わ	うござんすわ	女	1	1	434
	ございませんわ	女	1	1	
	ござんすわ	女	1	1	
	ござんせんわ	女	1	1	
	じやないわ	女	5	6	
	だわ	女	14	30	
	ですわ	女	17	60	
	なすつたわ	女	1	1	
	ますわ	女	12	37	
	ませんわ	女	10	23	
わ	女	25	268		
謙讓+ませんわ	女	1	1		
謙讓+わ	女	1	1		
尊敬+だわ	女	1	1		
尊敬+わ	女	2	2		

【表Ⅲ 女性だけが使用する文末表現】

表現 A	表現 B	人話手 数	度使用 数
わ	わ	25	268
ね	のね	24	82
わ	ですわ	17	60
の	なの？	16	55
ね	わね	16	51
わ	だわ	14	30
て	て	13	43
よ	てよ	13	41
よ	なのよ	13	27
よ	じゃないのよ	13	26
わ	ますわ	12	37
て	なくて	11	19
の	なの	11	18
ね	ようね	11	16
ね	尊敬+のね	11	16
て	尊敬+て	11	14
わ	ませんわ	10	23
こと	こと	10	15
よ	尊敬+よ (命令)	9	13
の	お+なの？	7	12
こと	だこと	7	10
ね	なのね	7	9
て	なすって	6	8
な	尊敬+な (命令)	6	7
ね	だわね	6	7
よ	なさいよ (命令)	6	7
の	なすったの？	5	10
の	じゃないの	5	7
よ	わよ	5	7
の	なさるの？	5	6
わ	じゃないわ	5	6
て	お+になって	5	5
よ	尊敬+てよ	5	5
か	じゃございませんか	4	6
ね	でございますね	4	5
よ	お+よ	4	5
か	でございますか	4	4
よ	名詞+のよ	4	4
さ	ですとさ	3	11
よ	でございますよ	3	9
て	じゃなくて	3	7
の	お+になったの？	3	5
の	お+になるの？	3	5
こと	お+ですこと	3	4
な	ておくれな (命令)	3	4
ねえ	ですがねえ	3	4
よ	尊敬+のよ	3	4

絶対女性語↑  
↓絶対女性語候補

表現 A	表現 B	人話手 数	度使用 数
こと	お+だこと	3	3
こと	ですこと	3	3
こと	尊敬+こと	3	3
とも	ごさんすとも	3	3
ね	まさあね	3	3
ね	尊敬+ね	3	3
ねえ	わねえ	3	3
よ	ごさんすよ	3	3
よ	だからよ	3	3
よ	尊敬+ますよ	3	3
ね	なさるのね	2	3
の	お+だったの？	2	3
よ	じゃなくてよ	2	3
よ	尊敬+ですよ	2	3
あ	あ	2	2
か	お+なすったじゃありませんか	2	2
か	お+謙讓+ますか	2	2
か	尊敬+か	2	2
こと	お+なすったこと	2	2
こと	ようだこと	2	2
て	なすったんですって	2	2
とも	でございますとも	2	2
な	てちょうだいな	2	2
ね	お+ね	2	2
ね	お+のね	2	2
ね	ことね	2	2
ね	ございませんね	2	2
ね	じゃないのね	2	2
ね	だけね	2	2
ね	だったのにね	2	2
ね	でしょうからね	2	2
ね	ですけれどもね	2	2
ね	ませんわね	2	2
ね	尊敬+ましたね	2	2
の	お+にならないの？	2	2
の	お+にならなかったの？	2	2
の	ますの	2	2
の	尊敬+じゃないの？	2	2
よ	じゃないわよ	2	2
よ	なさるからよ	2	2
よ	ましようよ	2	2
よ	ようよ	2	2
よ	謙讓+ますよ	2	2
わ	尊敬+わ	2	2